

第5学年

話すこと・聞くこと

相手の意図をとらえながら聞き、目的に応じて、自分の考えを話すこと

つまずきの実態

～こんな児童の姿が見られませんか？～

話し合う場面で、異なる意見を一つにまとめられない。

(☆小学校の課題について)
A あいさつをしない。
B 悪口を言う人がいる。
C 廊下を走る人がいる。

相手の話の意図や要点をとらえられていないため、共通点を見つけられない。
(安易に結論を出してしまう)

司会：私たちのグループでは、どの課題について取り組めばよいと思いますか。

B：Aさんが言ったあいさつがいいと思います。あいさつをしない人がいると嫌な気分になるからです。

C：私はやはり廊下を走ることが問題だと思います。

司会：あいさつという意見が多いようなので、あいさつに決めたいと思います。

実践の概要

単元名

田鶴野小を良くするために提案書を書こう

『明日をつくるわたしたち』光村図書

目標 互いの立場や意図をはっきりさせながら、計画的に話し合うことができる。

- 内容
- ・課題に対する自分の考えをもつ。
 - ・モデル文から、話し合い方を学ぶ。
 - ・共通点を探しながら話し合い、意見をまとめる。
 - ・提案書を書く。

学習内容の系統と各学年に見られるつまずき

	学習内容 (単元名)	つまずきの実態
第6学年	立場を明確にして主張し合い、考えを広げる討論をしよう	話し手の意図をとらえながら聞き、話の展開に沿って、助言をすることができない。
第5学年	田鶴野小を良くするために提案書を書こう	話し合う場面で、異なる意見を一つにまとめられない。
第4学年	大事なことを落とさない聞き取りメモ名人になろう	話し手の伝えたい大事なことを聞き落とさず、工夫してメモすることができない。
第3学年	幼稚園さんに学校生活の様子をつたえよう	互いの考えの共通点・相違点を的確に見つけられないために、意見がまとまらない。
第2学年	つたえたいことが聞く人によくわかる「あったらいいな、こんなもの発表会」をしよう	話し手が話した内容について、質問・アドバイス・感想が言えない。
第1学年	きいて しらせよう	大事なことを意識して聞き、そこから質問を見つけることができない。

単元末の目指す姿

- ・意見が異なる場合に、考えの理由や願いを聞き合い、共通点を見つけ、意見をまとめることができる。
- ・相手の話の意図や要点を意識して聞き、話し合うことができる。

つまずき解消に向けた指導の工夫 ①

異なる意見から、お互いの共通点を探させる。

活動のねらい▶ 理由や願いを聞き合うことで、共通点を見つける。

ここが
ポイント

表面的に意見が異なる場合でも、「なぜそう考えたか」という理由や願いを、さらに聞き合うことで、共通点を見つけられることを児童に理解させたい。そのために、話し合いの場面の実例を提示し、実際に共通点を見つける練習を行うことが効果的である。

授業の様子



話し合いの場面の実例
3人の共通点は何か？

(期待される児童の姿)

意見が異なる場合に、話し合いが止まったり、安易に多数決で決めたりすることが散見されるが、理由や願いを聞き合い、共通点を見つける方法を学ぶことで、メンバー全員の考えをいかそうと話し合う姿勢が見られるようになる。

つまずき解消に向けた指導の工夫 ②

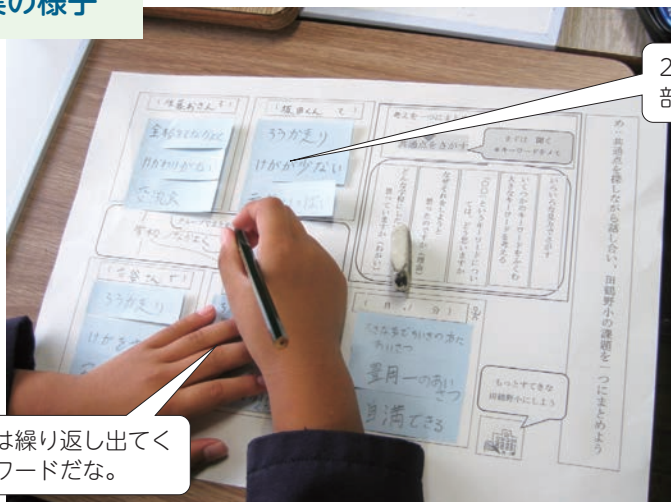
付箋にメモをしながら、相手の話の要点を意識して聞くようにする。

活動のねらい▶ 付箋にメモをしながら聞き、相手の話の要点や意図をつかむ。

ここが
ポイント

共通点を見つけ意見をまとめるためには、相手の話の要点や意図をつかむことが欠かせない。そこで、付箋にメモしながら相手の話の要点や意図を聞く活動を行う。付箋を操作しながら、お互いの意見の共通点を探ことができ、特に、聞くことに課題のある児童には、自分の考えを構成する上での手がかりとなる。

授業の様子



2人の意見は、「安全」という部分では共通しているぞ。

「安全」は繰り返し出てくるキーワードだな。

(期待される児童の姿)

付箋にメモをし、話し合いを可視化することで、話し合いに積極的に参加できる児童が増える。異なる意見から、お互いの共通点を探し、意見をまとめるためには、「相手の話の要点や意図を意識して聞く」ことが重要であると児童が実感し、児童の聞き方に変容が見られる。

第5学年

書くこと①

提案内容を分析・吟味して書くことを決め、効果的な構成で提案書を書くこと

つまずきの実態

～こんな児童の姿が見られませんか？～

自分の考えを、他の視点から見直したり、他の条件などに関係付けたりすることができない。

会の意義や目的と関係付けて、提案内容を考えられていない。

わたしは、最後の「班のつどい」の内容として、『いす取りゲーム』を提案します。なぜかというところ、いすとりゲームは楽しい遊びだからです。みんなでやると盛り上がると思います。ぜひ、わたしの提案するいす取りゲームを選んでください。

会に参加する、「1～4年」、「運営する5年」、「祝ってもらおう6年」それぞれの立場から提案内容やその理由を考えられていない。

実践の概要

単元名

提案書を書いて、班のつどいを『超変革』！

『明日をつくるわたしたち』光村図書

目標 問題点と関係付けて、提案内容を分析・吟味することができる。

- 内容
- これまでの班のつどいの問題点を共有する。
 - 問題を解決できる提案内容をグループで考える。
 - 提案内容を観点別に分かれた専門チームで分析し、その後、元のグループで吟味する。
 - 提案書を効果的な構成で書く。

学習内容の系統と各学年に見られるつまずき

	学習内容（単元名）	つまずきの実態
第6学年	説得力のある意見文を書いて、お別れ遠足の思い出を作ろう	自分の意見が深められなかったり、自分の考えを支える効果的な根拠が挙げられなかったりしている。
第5学年	提案書を書いて、班のつどいを『超変革』！	自分の考えを、他の視点から見直したり、他の条件などに関係付けたりすることができない。
第4学年	3年生にクラブのよさを伝えよう	自分の考えを明確にして、伝えたいことを写真や絵と関係付けた紹介文を書けていない。
第3学年	ぼうけん物語の作者になって出版記念会を開こう	内容的なつながりを考えて書きたいことを決めることができない。
第2学年	かんさつ名人になろう	観察したことから書くことを選んだり、簡単な構成で文章を書いたりすることができない。
第1学年	しらせたいなカードで、鈴原小学校の『いきもの』をしらせよう	メモしたことをもとにして、観点ごとにまとまりのある文章に書き表せない。

単元末の目指す姿

- 観点別に役割を与えられることで、自分の観点と問題とを関係付けて分析することができるようになる。
- それぞれの観点から分析されたことを統合することで、様々な視点から吟味して考えをつくることができるようになる。

つまずき解消に向けた指導の工夫 ①

★対話的な学びにつながる実践

提案内容について、専門チームに分かれて分析させる。

活動のねらい▶ ・提案について、他の視点から分析することができる。

ここが
ポイント

専門チームは、「班のつどい」に必然的に生まれる視点「1～4年生」「運営する5年生」「お祝いされる立場の6年生」ごとに作られている。専門チームを作る学習ではこの必然的な立場が大切である。

授業の様子



ぼくたち、「6年生の立場」チームからすると、いす取りゲームは、小さい子に怪我をさせないか心配だね。

そうだね、でも、6年生の立場からすると、6年生が活躍できそうだから楽しめるのかも。

(期待される児童の姿)

立場の違うチームの考えを比較することで、共通して大切にしたい視点を再認識したり、新たな視点を取り入れたりするなど、交流を通して自身の提案を客観的に見直すことができ、対話的な学びにつながるることができる。

つまずき解消に向けた指導の工夫 ②

専門チームで考えたことをもちより、元のグループで提案を吟味させる。

活動のねらい▶ ・他の視点から分析したことを関係付け、提案を吟味することができる。

ここが
ポイント

元のグループで交流させる時は、「下級生の願い」や「運営上の問題点」など、専門チームで分析した、その専門チームならではの意見を出させることで、主体的・協働的に学ばせることができる。

授業の様子



専門チームの分析をもとに、元のグループで吟味している様子

いす取りゲームは、みんなが楽しめると思っていたけど、安全面についても考えておかないといけないよ。

(期待される児童の姿)

元のグループに戻り、専門チームとして分析したことを発表し合っている。それぞれの分析内容を関係付けることで、提案内容を吟味することができる。

第5学年

書くこと②

自分の考えを明確に表現するため、文章全体の構成の効果を考え書きまとめること

つまずきの実態

～こんな児童の姿が見られませんか？～

自分の考えを明確に伝えるために文章構成を考えているが、効果的ではない。

はじめと終わりの意図していることが異なっている。

わたしは人と防災センターに行くって学んだことを伝えます。
一つ目は、地震のことについて語ってくださった方がいました。地震が起きた直後は家の中がミキサーに回されたようにぐちゃぐちゃになっていました。皿も下に落ち割れてしまっていたそうです。これを生かして防災について四年生に伝えたいと思います。

「一つ目は」と使っているが、「二つ目は」と続きを書くことができない。

実践の概要

単元名

和の文化について調べよう

『和の文化を受けつぐー和菓子をさぐる』東京書籍

目標 効果的な文章の構成を考え、事柄が明確に伝わるように説明文を書きまとめる。

内容 ・「和の文化を受けつぐ」を読み、筆者の考えと和の文化を調べる観点を読み取る。

- ・説明文を書くための構成図を作る。
- ・説明文を書く。
- ・読み合い、校正する。

学習内容の系統と各学年に見られるつまずき

	学習内容 (単元名)	つまずきの実態
第6学年	町の未来をえがこう	資料を正確に読み取っているが、「この資料が本文に述べられている要旨につながるものではない」という判断ができていない。
第5学年	和の文化について調べよう	自分の考えを明確に伝えるために文章構成を考えているが、効果的ではない。
第4学年	わたしたちの生活とロボットについて考えよう	様々な角度から考え、内容を整理して書くことや接続語や指示語、文末表現を効果的に使って書くことができない。
第3学年	要約名人になってもうどう犬リリーフレットを作ろう	中心となる言葉や文を見つけて要約することができず、長い文を書き写してしまう。
第2学年	どうぶつのひみつをみんなでさぐる	見つけた大事な言葉を使って、順序よく書きまとめたり、不要な言葉を省いたりすることができていない。
第1学年	サラダでげんきおしゃべりレシピをつくろう!	大事な言葉を見つけ、順序に注意して正しく文や文章を書くことが難しい。

単元末の目指す姿

- ・文章構成や筆者の書きぶりを手がかりに本文を読み、筆者の意見に迫ろうとするようになる。
- ・調べたことを説明文として書く時に、効果的な文章構成や読者を意識した書きぶりができるようになる。

第5学年

書くこと③

目的に応じた小見出しを作り、自分の考えと区別して説明する文章を書くこと

つまずきの実態

～こんな児童の姿が見られますか？～

目的に応じた小見出しを作り、その内容を説明する文章を自分の考えと区別して適切な資料を入れながら書けない。

和菓子に込められている願いや食べる日、和菓子の種類など目的に合った具体的な内容を選ばず、小見出しに沿った説明が書けない。

適切な資料を選べない。

す。られては願いがとてもこめに食べます。和菓子に年中行事があるときと結びついているので、和菓子は年中行事のもの節句に食べる

キーワードを使って小見出しが書けない。

自分の考えを書き、願いの中身が書けていない。

実践の概要

単元名

「和の魅力リーフレット」を作ろう

『和の文化を受けつぐー和菓子をさぐる』東京書籍

目標 集めた情報を用いて、和の文化の魅力を表した小見出しとその説明が入った「和の魅力リーフレット」を書く。

内容

- 和の魅力を見つけ、その魅力をまとめたリーフレットを作成するという単元の見通しをもつ。
- 魅力のを見つけ方、リーフレットの書き方を学ぶ。
- リーフレットを交流し、単元を振り返る。

学習内容の系統と各学年に見られるつまずき

学習内容 (単元名)		つまずきの実態
第6学年	自分の投書を新聞に投稿しよう	自分の主張に沿った理由とその理由につながる根拠が書けない。
第5学年	「和の魅力リーフレット」を作ろう	目的に応じた小見出しを作り、その内容を説明する文章を自分の考えと区別して適切な資料を入れながら書けない。
第4学年	広告大賞を目指して、夢の〇〇商品の広告を作ろう	2つの文章を読み取り、それぞれの意図や目的による違いが挙げられない。
第3学年	理由がわかるように書こう	自分の考えたこととその理由を整理し、順序立てて書くことができない。
第2学年	絵を見てお話を作ろう	場面がつながるように、伝えたい事柄を決められない。
第1学年	のりものかるたをつくろう	調べたことから、学習のめあて(役目・つくり・できることを意識して書く)に則した伝えたい内容が決められない。

単元末の目指す姿

- 本文全体からキーワードを見つけ出し、小見出しが書けるようになる。
- 小見出しに沿った内容について、目的に合った具体的な説明や適切な資料を入れながら文章を書くことができる。

つまづき解消に向けた指導の工夫 ①

読み取った和菓子の魅力を板書で整理し、キーワードから小見出しを作り、グループで吟味する活動を取り入れる。

活動のねらい▶ 文全体からキーワードを見つけ、目的に応じた小見出しを書くことができる。

ここがポイント

和菓子の魅力の見つけ方とその理由の述べ方、キーワードの見つけ方（何度も出てくる言葉、題名と関連のある言葉、問いに対する答えの段落に出てくる言葉）を事前に指導することで、「・・・和菓子」の言葉で作った小見出しをグループで吟味する際、どの言葉を使えばよいのか考えられるようにする。

授業の様子

年中行事という言葉が何度も出てきたね。

願いがこめられていることは魅力だけど、小見出しでなく説明で書いたらいいかなあ。

答えの段落に「年中行事」「茶道」という言葉があるよ。

(期待される児童の姿)

自分が和菓子の魅力だと思った理由を明確にしてから交流することで、キーワードを見つけやすくなり目的に応じた小見出しを作ることができるようになる。

つまづき解消に向けた指導の工夫 ②

小見出しに沿って説明する内容や資料はどのようなものが適切か話し合い、自分のリーフレットにいかすようにする。

活動のねらい▶ 小見出しに沿った説明を自分の考えと区別し、目的に合った内容や適切な資料を入れながら書くことができる。

ここがポイント

事前に下記のような文章や資料について全体で比較させることで、どんな説明の文章や資料が良いのか、考えられるようにする。

- 感想や考えが書いてある文と小見出しの説明が書いてある文。
- 表や写真など資料を効果的に使っているものと無いもの。

授業の様子

この具体例と写真を入れて説明しよう。

歴史の説明は年表を入れるといいな。

(期待される児童の姿)

説明する内容や資料について話し合うことで、小見出しに沿った内容や資料を考えながらリーフレットを作ることができるようになる。

第5学年

読むこと①

要旨や、事実と感想、意見などとの関係をおさえ、自分の考えを明確にしながら読み、本や文章を読んで考えたことについて、自分の考えを広げたり深めたりすること

つまずきの実態

～こんな児童の姿が見られませんか？～

- ①本文をもとに文章の構成・構造をとらえられない。
- ②自分の考えを述べるときに、自分の知識や経験と結び付けながら説明することができない。

1

T：「生き物は円柱形」は双括型？尾括型？
C：「尾括型。筆者の主張は最後にあると4年生で学んだから。」
→明確な理由もなく、文や文章の構成・構造を曖昧にとらえている。

2

T：「なぜ『例外』をあえて説明文に書いたの？」
C：「例外を書くことで、説得力が高まると思うから。」
→自分の主張を、知識や経験と関連付けて説明することができていない。

実践の概要

単元名

説明の仕方の工夫を見つけ、話し合おう

『天気を予想する』光村図書

目標 筆者が用いた説明文の説明の仕方の工夫について、本文を根拠に考えをもち、自分の経験と結び付けながら考えを深めることができる。

- 内容
- ・全文を意味段落に分け、構成の工夫を読み取る。
 - ・問いと答えの順序に仕組まれた構造の工夫を読み取る。
 - ・読み取った構成・構造の工夫を根拠に文章構成図を考える。

学習内容の系統と各学年に見られるつまずき

	学習内容（単元名）	つまずきの実態
第6学年	自分の感じたことを、朗読で表現しよう	作者の思いを読み取るだけになって、自分の経験や思いを関連付けて、読みを深めることができない。
第5学年	説明の仕方の工夫を見つけ、話し合おう	<ul style="list-style-type: none"> ・本文をもとに文章の構成・構造をとらえられない。 ・自分の考えを述べるときに、自分の知識や経験と結び付けながら説明することができない。
第4学年	段落どうしの関係をとらえ、説明の仕方について考えよう	段落相互の関係を考えたり、叙述を自分の経験や知識と関係付けて主体的に読み深めたりできない。
第3学年	心にのこったことを、自分の言葉で表そう	伝えたいことを条件に合わせて、まとめて書くことができない。
第2学年	知っていることとつなげて読もう	長文になると、「問い」に対する「答え」の部分が見分けられない。
第1学年	おはなしのおみせやさんごっこをしよう	自分の経験と結び付けて想像豊かに読み、自分の考えをまとめたり広げたりできない。

単元末の目指す姿

- ・本文のキーワードやキーセンテンスをもとに、説明的な文章の構成や構造を考えることができるようになる。
- ・学習課題について主体的に考え、知識や経験と結び付けて筆者の主張を自分の言葉で説明することができるようになる。

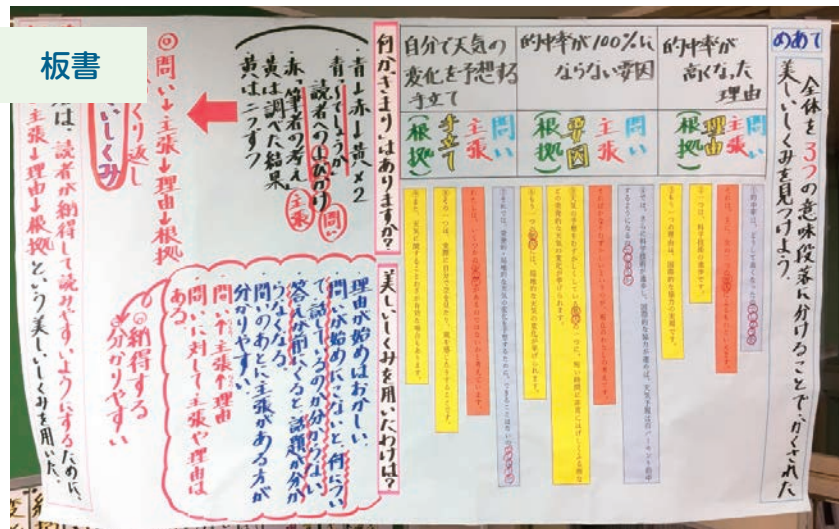
つまずき解消に向けた指導の工夫 ①

発問、板書に結び付けたワークシートを用意する。

活動のねらい▶ ・ワークシートに自分の考えを整理し、それが板書とつながることで、授業の内容を理解することができる。

ここがポイント

発問とワークシート、そして板書の3つがつながることで、児童は自分の考えを整理しやすくなる。本文を同じようにワークシートにも引用したり、児童が意見を書く場所を同じにしたりする。



(期待される児童の姿)

本文の、問い・主張・理由(青・赤・黄)にサイドラインを引き、板書にも同じ色の短冊を用意し並べることで、構成の工夫に視覚的に気付くことができる。そのため、明確な理由をもって自分の考えを主張することができる。

つまずき解消に向けた指導の工夫 ②

★深い学びにつながる実践

主発問で考えさせたことを、さらに深める補助発問を工夫する。

活動のねらい▶ ・全体で出された意見をもとに自分の考えを見つめ直し、考えを深めることができる。

ここがポイント

- ・確認させる発問を、「自分だったら…」と考えられる発問にすることで自然と説明文に対する自分の考えをもち、表現できるようになる。
- ・児童の発言から出てきた言葉をつかい、吟味(AかBかで考える)させる発問をすることで、練り合い、考えを深められるようにする。

授業の様子



僕は、意味段落の順序を入れ替えてはいけないと思います。理由は、前の話につながりながら問いが生まれているからです。的中率が上がってきた、じゃあ100%になるのかな？と読者が思うように意味段落が並んでいます。

僕が納得したところは、自分で空を見、風を感じる事が大切だという筆者の主張です。理由は、理科の実験でも、実際に空を見たり雲の量を見たりして天気を予想することができたからです。

(期待される児童の姿)

教材文に対する自分の考えを説明するために、自分の経験と関連付けて考えたり、全体で出された意見をもとに自分の考えを見つめ直したりするなど、深い学びにつながる事ができる。

第5学年

読むこと②

登場人物の相互関係や心情、場面についての優れた叙述について、自分の考えをまとめること

つまずきの実態

～こんな児童の姿が見られませんか？～

一方的なものの見方から抜け出せず、主題にせまる感想をもつことができない。

～初読の感想から～

作品の世界を味わうことができない。

大造じいさんが
ガンをねらってい
て、がんがかわい
そうだなと思いま
した。
ガンのきずなが
書かれていると思
いました。

大造じいさんは
残雪をうたなかつ
たし、かん病をし
たのでとても心優
しい人なんだなあ
と思いました。

登場人物の相互の
関係が作品の大事
な部分であることを
とらえられてい
ない。

実践の概要

単元名

すぐれた表現に着目して、物語のみりよくを伝え合おう

『大造じいさんとガン』光村図書

目標 登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、優れた叙述について自分の考えをまとめるとともに、それを発表し合い、考えを深めることができる。

- 内容
- ・初めの感想と意味調べをする。
 - ・場面ごとに人物の言動や情景描写から心情を読み取っていく。
 - ・物語の魅力を伝え合う。

学習内容の系統と各学年に見られるつまずき

	学習内容 (単元名)	つまずきの実態
第6学年	宮沢賢治が創り出す世界を味わおう	登場人物の相互関係や場面についての描写をとらえることができず、主題にせまる考えをもつことができない。
第5学年	すぐれた表現に着目して、物語のみりよくを伝え合おう	一方的なものの見方から抜け出せず、主題にせまる感想をもつことができない。
第4学年	読んで考えたことを話し合おう	登場人物の姿・様子について、文中の一部から表面的にしかとらえられない。
第3学年	場所の移り変わりをとらえて感想をまとめよう	中心人物の様子を表す言葉から、中心人物の置かれている状況を想像して、気持ちを書くことができない。
第2学年	音読げきをしよう	叙述に込められている登場人物の気持ちの変化を想像することができない。
第1学年	音読発表会をしよう	場面の様子や登場人物の言動を表す言葉を見つけ、想像を広げることができない。

単元末の目指す姿

- ・細かな表現も見逃さないようにしよう意識しながら、人物の心情を読み取ることができ、豊かな描写にも気付くことができる。
- ・人物のものの見方にふれ、人物の相互関係によって心情の変化が起きていることを知ることができる。

つまずき解消に向けた指導の工夫 ①

場面ごとに人物の心情がわかる描写を読み取らせる。

活動のねらい ▶ 各自で心情がわかる描写を探した後、グループで持ち寄ることで、考えが確かなものとなり、深まっていく。

ここがポイント

- 人物の行動と会話文から心情を読み取る。
〈例〉『うん。』と、うなっていました。」から、余裕がなくなった大造じいさんの悔しさが読み取れる。
- 情景描写から人物の心情を読み取る。
〈例〉「あかつきの光が…流れこんできました。」から、戦いへの意気込みが感じられる。

授業の様子



大造じいさんはこう思っているよ。そのことは、ここからわかるよ。

なるほどね。わたしは、ここにもそんな気持ちが出ていると思うな。

(期待される児童の姿)

- 相手に伝えるという必然性をもたせることで、一人学習の際に、根拠となる表現を探すことの意識が高まる。
- 同じ描写でも異なる心情が読み取れたり、異なる描写から似た心情が読み取れたりすることに気付き、各自の読みを深めることができる。

つまずき解消に向けた指導の工夫 ②

場面ごとに読み取りを整理して、ワークシートにまとめさせる。

活動のねらい ▶ 整理することで、全体交流の際に、場面ごとの読み取りを関係付けやすくなる。

ここがポイント

- 大造じいさんの残雪に対する思いを場面ごとに整理していく。
- 戦いを通して強まる大造じいさんの悔しさに共感し、自分の言葉で書き記していく。
- 残雪の行動を「仲間を助けた」「頭領らしい」と意味付けた大造じいさんの心情の変化も同時に読み取っていく。

(期待される児童の姿)

場面ごとに整理をすることで、場面と場面を比べることができ、人物の気持ちの強さや変化に気付くことができる。自分の言葉で心情を表すことができる。

ワークシート

「人物の行動」「会話文」「情景」など、残雪への思いがわかる部分を見つけ、自分の言葉で書き込ませていく。

